

ま え が き

本書は、アジア経済研究所（アジ研）が2015年度から2016年度にかけて組織した「アジア国際産業連関表の作成：課題と拡張」研究会（主査・幹事：桑森啓）の成果である。

アジ研では、1970年代から40年以上にわたり、アジア各国の共同研究機関とともに、主として東アジアを対象とする国際産業連関表の作成やそれを用いた分析を行ってきた。これらの成果は、公表した産業連関表を掲載した「統計資料シリーズ」（Statistical Data Series）や国際産業連関表作成事業の年次報告書である「アジア国際産業連関シリーズ」（Asian International Input-Output Series）に収められており、すでに100冊以上蓄積された貴重な資料となっている。

一方で、上記のようにおもに作成プロセスを中心として、クロノジカルに蓄積されてきた資料のほかに、将来にわたるこの分野の継承として国際産業連関表の作成や分析に関する知見を体系的に整理することの必要性も強く感じられていた。

このような背景から、アジ研では、2012年度から2013年度にかけて「国際産業連関分析論」研究会（主査：玉村千治、幹事：桑森啓）を組織し、蓄積されてきた作成・分析に関する知見の包括的・体系的なとりまとめを行うことを試み、その成果を『国際産業連関分析論—理論と応用—』（玉村千治・桑森啓編 研究双書 No. 609 2014年）として発表した。同書は、今後の国際産業連関表の作成・分析の両面に資する国際産業連関論の研究書となることを目的として、国際産業連関表作成の歴史や作成方法を整理するとともに、その理論的基礎の検討や代表的成果であるアジア国際産業連関表（アジア表）を用いた基本的な分析方法や分析事例も紹介している。

本研究会は、上記研究会の後継研究会として実施され、前書においては簡易な説明にとどまっていたアジア表の作成に焦点を絞り、作成方法の特徴や

作成上の課題，さらには発展の方向について，より詳細な検討を行うことにより，前書を補完する役割を果たす研究書を作成することを目的としている。

なお，本書は直接的には冒頭の研究会の成果であるが，上でも述べたとおり，アジ研で長年にわたって蓄積されてきた知見に基づいている。その意味において，本書は前書と同様これまでにアジ研の産業連関表の作成にかかわった多くの人々の成果であることを強調しておきたい。40年を超える事業に携わったすべての方々の名前を挙げることは不可能であるが，この場を借りて深く感謝の意を表したい。

また，研究会の実施に際しては，外部委員として佐野敬夫氏（元岐阜聖徳学園大学教授）にご参加頂き，原稿執筆のほか，プログラミングやデータ処理の面でもご尽力頂いた。ご協力に深く感謝申し上げたい。

最後に，本書の審査過程においては，匿名の所内レフェリーから，丁寧かつ有益なコメントを頂いた。記してお礼申し上げます次第である。さらに，本書の編集全般にわたってアジ研の出版企画編集課の井村進氏に大変お世話になった。あわせて感謝申し上げたい。

2017年 8 月

編 者